

## コロナ禍における第 1 学年の対応と取り組み

第 1 学年 石鍋圭一 伊吹憲治 堀田景子 村田拓也 森永敦樹 林田香織  
岩崎知博 有本明日翔 足立達彦 横井健 圓岡和子

### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、4月8日（水）～5月31日（日）まで休校となった。本稿では、今年度の第 1 学年の対応と取り組みをまとめる。

### 2. 入学式に関する動き

本校では、本来 4 月 6 日（月）に入学式を予定していたが、緊急事態宣言の影響もあり、「新入生登校日」という形に変更した。新入生登校日では、新入生のみでの登校をお願いし、保護者には駐車場などでの待機をお願いした。

新入生登校日において、新入生は、各家庭での検温をお願いした上で、校舎へ入る前に、マスクの着用や消毒の実施をしてもらった。その後、各 HR の教室に分かれて入室し、自席での待機をお願いした。新入生ということもあったかと思うが、生徒もよく指示に従い、不用意な密集や密接も起こらず、円滑な運営を行うことができた。

新入生登校日の内容としては、校長講話・学年主任講話・担任挨拶などを実施した。講話については、オンラインミーティングアプリ「Zoom」を使用することで、各教室と会議室をつなげ、会議室から講話を実施した。以下がその様子である。



不十分な形ではあったが、このような状況でなかったとしても不安の多い新入生にとって、本格的な休校措置の前に学校に登校し、同級生と時間を過ごす機会を持てたことは、良かったと思われる。

### 3. 休校期間中の取り組み ―その1―

休校期間中の取り組みは大きく2つのことを目標にした。

第一には、学年や学級の形成を目指した。新入生ということもあり、教員団も生徒もお互いにまったくつながりが作れてない状態で休校期間を迎えた。その為、休校期間中は先ず学年の教員（特に担任）と生徒がつながりを作れることを目標に工夫した。

その工夫としては、教育プラットフォーム「Classi」を活用して、担任や副担任の先生、教科を担当してくれる先生と学年・クラスの生徒がコミュニケーションを取れる場を設定した。具体的には、生徒に、学習時間記録を入力できる機能を使って、毎日、学習時間の記録と日々の体調などを含めたコメントの記入を課した。教員には、そのコメント欄への返信などを介してやり取りを行えるようにした。また、「ポートフォリオ」という掲示板の様な機能を活用して、生徒が教科などの質問を学年の先生に向かってすることができるようにした。これらの機能を使うことで、家庭で過ごす間も、電話連絡以外で直接教員とコミュニケーションをとれる様になる状態を作れたと思う。

また、先ほどの「ポートフォリオ」という機能を使うことで、出来上がった課題を写真に撮影して投稿したり、作文を直接入力して提出することができた。生徒には、新入生登校日やその翌日に行った始業式（この日以降、休校期間に入る）に家庭学習課題を課していたが、その課題の提出をこのポートフォリオを通して実施させた。そのことで、生徒にとっては、提出課題の期限が明確になり、先の見えず、計画の立てにくかった当時の状況の中で、日々の学習計画を立て易くさせることができたかと思う。また、教員にとっても、その提出状況を確認することが、生徒の家庭での学習状況や様子、もしくはその人となりや推察する助けになった様に感じた。実際に、提出がうまくいかない生徒がいた場合には、学年の教諭が学校から直接家庭に電話連絡をして、提出を困難にしている状況の改善に努めた。

また、これ以外にも、「校内グループ」という全体連絡するための機能を活用して、学年の「朝の連絡」というものを毎日発信したり、5月に入り出校日を設けることができた後は、Zoomを活用して各クラスで「朝のST」なども実施した。

とにかく、新しい学校で新しい生活を始めるはずだった生徒に、どうすれば普通に学校に登校できているかのような体験を感じられるかを考え、様々な工夫を実施していった。

### 4. 休校期間中の取り組み ―その2―

第二の取り組みとして、家庭での継続的な学習習慣の形成を目指した。前の項目でも書いたが、生徒には家庭学習の為の課題を始業式（4月7日）に課した。そして、前述した通り、この提出をClassi上のポートフォリオ機能で行わせることで、家庭での計画的な学習を促した。加えて、5月になっても休校措置が解除できなくなった段階で、追加課題を5月に行った出校日で配布したり、Classiの「校内グループ」で連絡したりした。また、休校措置が長引くにつれて生徒間の学習時間にも差が見られたことから、各教科から「自主学習アドバイス」を出し、家庭での学習を促進したりもした。

以上のような課題の提示だけでなく、5月からZoomを使ってオンラインの学習指導も行った。5月の出校日で生徒には次のページにある様に分散登校をしてもらい、各自の携帯などにZoomのインストールおよび操作の指導を行った。

- 校舎に入る前に、検温の有無を確認し、未実施の者は保健室へ誘導する。また、昇降口にアルコールスプレーを設置し、マスクのない生徒にはマスクを配付着用させる。

- 各クラス4班に分け、時間をずらして登校をさせる。

出席番号	1番～10番	→	1班	(10:00～10:30)
	11番～20番	→	2班	(11:00～11:30)
	21番～30番	→	3班	(13:00～13:30)
	31番～40番	→	4班	(14:00～14:30)

- 班によって使用する教室を変え、生徒が同じ机を使用することをできるだけ避ける。また、事前に課題を各教室の机の上に準備し、時間の短縮化に努める。

1班	→	1年生の教室 (例: 1組1班=1-1、2組1班=1-2、・・・)
2班	→	2年生の教室 (例: 2班=2-1、2班=2-2、・・・)
3班	→	3年生の教室 (例: 3班=3-1、3班=3-2、・・・)
4班	→	1年生の教室 (例: 4班=1-1、4班=1-2、・・・)

第一学年では、以下の時間割に沿って、2つの形で5月11日よりオンライン学習支援を行った。

9:00～9:20	朝のST + メディアリテラシー教育 (最初の8回)
9:30～12:00	(※ 各教科、必要性に応じて不定期に講座を開催)
13:00～13:50	曜日毎に英数国理社の教科がローテーションで指導
14:00～15:30	(※ 各教科、必要性に応じて不定期に講座を開催)

一つ目の形として、「ローテーション講座」を英語・数学・国語・理科・社会を、以下の時間割に沿って、月曜日から金曜日の13:00より実施した。朝の9:00から行った「朝のST」とこの「ローテーション講座」の時間を、原則、全員参加とすることで、日常の学習リズムの安定と学習内容に差を生み出さないように配慮した。各講座20分～40分程度を目安として、5月11日から5月29日までの3週間、毎日一教科ずつ学習支援指導を行った。

	月	火	水	木	金
教科・科目	化学基礎 地学基礎	英語	数学	国語	社会

また、二つ目の形として、9:30～12:00および14:00～15:30の間で、「補充講座」を実施した。こちらは、5月18日から5月29日までの2週間、希望者参加という形で実施した。対象としては、すでに課せられた課題を終わらせてしまっている生徒などを想定して実施した。以下が実際に開講した講座である。

- 「ボキャビル！」(英語) : 月・水・金 / 15分程度 / 6回実施
- 「ベーシック英文法」(英語) : 月・水・金 / 30分程度 / 3回実施
- 「二次関数のグラフ」(数学) : 5/29実施 / 45分

## 5. 分散登校

緊急事態宣言の解除を受けて、本校でも対面授業再開への道を模索した。3年生が先行して、5月25日から分散登校を行い、1・2年生は6月1日から大学の施設を利用して分散登校を開始することになった。以下が登校再開初日（6月1日）のスケジュールである。

	1組	2組	3組	4組	5組
	8:00 から教室開錠（生徒は入室 8：15～）				
8:50～	点呼 → 朝の ST				
9:05～9:15	課題回収（担・副）				
9:15～9:30	教務講話	生徒指導講話	クラス LT	クラス LT	クラス LT
9:30～9:45	クラス LT	教務講話	生徒指導講話		
9:45～10:00		クラス LT	教務講話	生徒指導講話	
10:00～10:15	放課（15分） ※体操服未購入生徒は購入手続きをする				
10:15～10:30	クラス LT	クラス LT	クラス LT	教務講話	生徒指導講話
10:30～10:45	生徒指導講話			クラス LT	教務講話
10:45～10:55	放課（10分）				
10:55～11:50	クレペリン検査（配布5分→実施45分→回収5分）（担・副）				
11:50～11:55	帰りの ST				

1年生は、入学式・始業式に参加して以降、ずっと休校期間に入っていたので、まず4月当初に行う予定になっていたオリエンテーション講話やクレペリン検査、HR役員決めなどを優先して実施した。また、6月2日には、同じくやれていなかったオリエンテーションテスト（英・数・国）を実施したので、実際の授業開始は6月3日からとなった。

新型コロナウイルスの対策として、この6月1日から6月5日までの最初の一週間は、月・水・金は1年生が午前中に登校し、2年生が午後に登校する形で実施した。（火・木は逆）また、登校時に教員が校舎の出入りに立ち、検温報告や校舎へ入る前のアルコール消毒を呼びかけた。加えて、座席は原則、前後左右の机を1つずつ開ける事とした。

## 6. おわりに

今回の休校措置は、教員にとっても生徒にとっても全てが初めての状況で、どのような指導をしていくのが効果的なのかなど、その都度、学年内で検討を重ねることで作り上げていくことになった。特に、教員も在宅勤務となった4月や5月においては、ZoomやLineなどのオンラインツールを利用しての会議となり、慣れない中で意見交換にも苦勞する日々となった。多くの苦勞を伴った時期にはなったが、ClassiやZoomなど普段の対面授業ではあまり使ってみることのなかったオンラインツールの利用方法を学ぶ良い機会にもなった。まだまだ新型コロナウイルスの影響は濃く、社会も落ち着かない中ではあるが、様々な指導の方法を検討して、制限のある中でも生徒が深い学びをできるように努力したい。